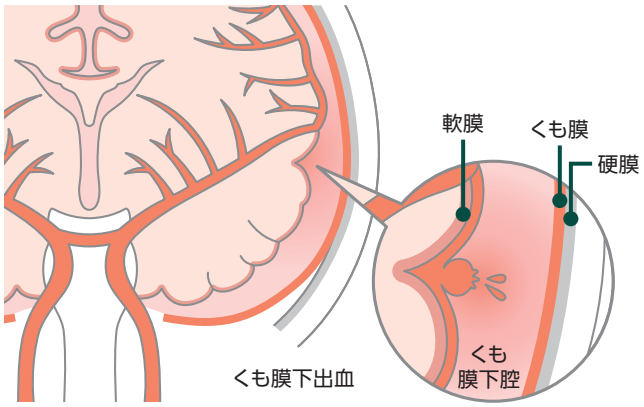
ピヴラッツ®点滴静注液150mg による治療を受ける 患者さんとご家族の方へ

監修｜新妻 邦泰 先生
東北大学大学院医工学研究科 生体再生医工学講座 神経再建医工学分野 教授
東北大学大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 神経病態制御学分野 教授

ピヴラッツ®は、くも膜下出血の手術後に誰にでもおこりえる**脳血管れん縮**と、**脳血管れん縮に伴っておこる新たな脳梗塞や神経症状の発症を抑える薬**です。

くも膜下出血とは?

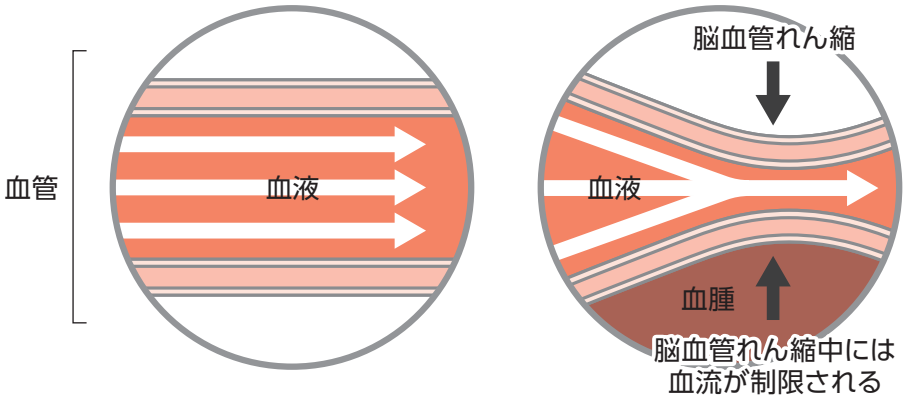
- 脳を囲む3層の膜（硬膜・くも膜・軟膜）のうち「くも膜」と「軟膜」の間にある「くも膜下腔」に出血が生じた状態をいいます。
- くも膜下出血は脳動脈瘤といわれる血管のふくらみが突然破裂する脳動脈瘤破裂がほとんど（80～90%）の原因を占めています。
- 破裂した脳動脈瘤からの出血が止まらない場合には、病院に辿り着く前にお亡くなりになります。病院に辿り着いた場合には、なんとか出血が止まっていますが、いつ再破裂するかわからない状態と考えられます。
  この段階で、脳に高度の障害を負ってしまっている場合には治療が難しいですが、脳の障害が軽度、もしくは障害がない場合には、再出血予防の治療が考えられます。



脳血管れん縮とは?

- くも膜下出血は、手術が無事に終わっても安心はできません。およそ4～14日の間は脳血管れん縮がおこる可能性があります。
- 脳血管れん縮がおこると、脳血流が十分でなくなり脳が障害される脳梗塞をきたし、死亡もしくは後遺症が残る可能性が高くなります。

脳血管れん縮：
血液中の成分に血管が反応して、血管が狭くなり、脳の血液が十分に流れなくなることです。



ネクセラファーマジャパン株式会社

ピヴラッツ®とは?

持続注入ポンプを用いて、24時間静脈内に点滴投与します。
くも膜下出血の発症後48時間以内を目安に投与を開始し、発症後15日目まで投与します。
点滴は、医師の判断により投与し続けられることになります。

以下の副作用があらわれる可能性があるため、投与中も適切に検査・処置がなされます。

- 以下の副作用が報告されています。
- 医療施設のスタッフにより病状の観察が行われ、異常が認められた場合にはピヴラッツ®の投与を中止するなど適切な処置が行われます。

肺の合併症、体液貯留(肺合併症、脳浮腫など)
体液量の調整に注意しながら投与します。

低血圧、血圧低下
血圧を注意深く観察します。

貧血、肝機能異常
必要に応じて検査を行います。

頻脈性不整脈
ピヴラッツ®投与開始前、投与中に心電図を測定します。

出血
状態を十分に観察し、慎重に投与します。

何か気になることがあればすぐに相談しましょう。

・むくみ　・息切れ　・めまい　・動悸

すぐに医師・看護師・薬剤師に相談してください。

ネクセラファーマジャパン株式会社

JP-CL-00010
PVP0002C
2026年2月作成